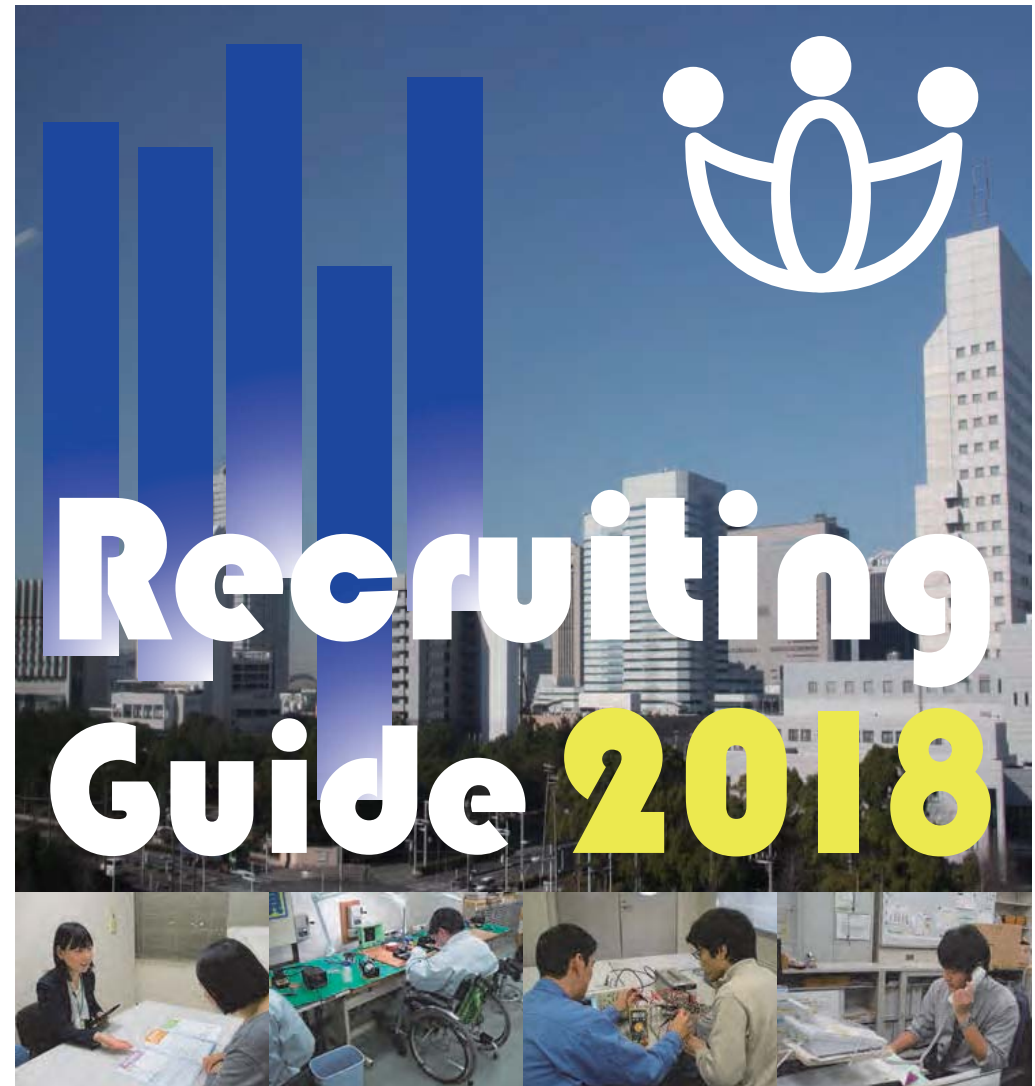


- 




 独立行政法人（厚生労働省所管）
高齢・障害・求職者雇用支援機構
 Japan Organization for Employment of the Elderly and Persons with Disabilities
 平成30年度採用案内

誰もが職業をととして社会参加できる 共生社会を目指しています

約187万人

(※1)

ハローワークで仕事を探している求職者の数です。

これらの方々が職業に必要な能力の開発及び向上により職業の安定につながるよう、職業訓練を的確に実施することが求められています。

当機構では「雇用のセーフティネットとしての職業訓練の実施」等、求職者・在職者・学卒者・事業主等の様々な対象者に向けた職業能力開発事業を展開しています。

65歳を超えても働きたいと回答した人の割合です。

少子高齢化のなか、日本が活力ある社会を維持するためには、高齢者が長年培った知識・経験や働く意欲を十分に活かすことができるよう「生涯現役社会の実現」を目指す必要があります。当機構では「年齢にかかわらず働ける企業」の実現を目指して、高齢者雇用に関する事業主への支援等を行っています。

65.9%

(※2)

約23万人

(※3)

ハローワークで仕事を探している障害者の数です。

共生社会を実現する上で、働くことを希望する障害者が能力を十分に発揮し、就労を通じた社会参加ができるようにしていくことが重要な課題です。

当機構は、障害者雇用納付金制度に基づく障害者雇用納付金の徴収及び助成金等の支給、広く社会一般に対して障害者雇用への関心と理解を深めるための広報・啓発等を実施するとともに、障害者に対する雇用支援、障害者を雇用する事業主への支援等を行っています。

※1 出所：厚生労働省「一般職業紹介状況」

※2 出所：内閣府「平成25年度高齢者の地域社会への参加に関する意識調査」

※3 出所：厚生労働省「平成27年度・障害者の職業紹介状況等」

高齢・障害・求職者雇用支援機構とは

当機構は「誰もが職業をととして社会参加できる共生社会」を目指し、高齢者や障害者、求職者等に対する総合的な雇用支援を行う厚生労働省所管の独立行政法人です。

具体的には、高齢者や障害者の雇用支援のための相談や助言、助成金の支給、職業リハビリテーション、障害者雇用納付金の徴収、また、求職者や在職者等に対する職業訓練など、国の高齢者雇用、障害者雇用、職業能力開発施策の多くを、国に代わって実施しています。

我々の使命

現在、我が国は少子高齢化が進み労働力人口が減少する中、今後も経済社会が発展していくため、当機構は、高齢者、障害者、求職者を含め働く意欲と能力を持つ全ての国民に対して総合的な雇用支援を実施しています。

当機構が担うこれらの業務や役割は、ますます重要になってきており、国民の負託に応えられるよう、私たちは責任感、使命感をもって職務に当たっており、誰かの役に立っていることを実感できる非常にやりがいのある仕事だという自負があります。

当機構の業務、理念に共感していただける方には、是非私たちの仲間に加わっていただき、新鮮な視点と豊かな発想で、「共生社会」の実現を目指し共に全力を尽くしていけるならば、大変心強く思います。

INDEX

高齢・障害・求職者雇用支援機構の概要	1
施設のご紹介	3
職種のご紹介	5
わたしの1日	7
若手職員座談会	15
先輩職員からのメッセージ	17
人材育成のしくみ	19
ワーク・ライフ・バランス	20
応募方法	21
採用Q&A	22

●施設のご紹介

※【高】：高齢者に対する支援 【障】：障害者に対する支援 【求】：求職者・学卒者・在職者及び事業主等に対する支援
※各施設の所在地等は当機構ホームページ（<http://www.jeed.or.jp/location/index.html>）をご覧ください。



★都道府県支部【高】【障】【求】

47ヶ所

事業主等を対象に高齢者、障害者の雇用に関する助成金、納付金等の受付、相談・援助や地方アビリンピックの開催等の啓発業務を行っています。また、求職者支援制度の周知広報や、求職者支援訓練の実施を希望する機関への相談援助、訓練計画の受理・審査及び訓練の実施にあたっての助言等を行っています。

この他、各都道府県内における機構業務の総合調整や経理等の管理事務を行っています。



★地域障害者職業センター【障】

52ヶ所

これから働こうとする、または働いている障害者に対して、職業相談・職業評価、職業準備支援、ジョブコーチ支援、リワーク支援等、障害者雇用の促進や、職場定着のための支援を行っています。また、障害者を雇用する企業や、障害者の就労を支援する関係機関の方に対して、相談・助言を行っています。



★職業能力開発促進センター【求】

63ヶ所

求職者の方々を対象とし、早期再就職に必要な技能・技術、関連知識を習得するための職業訓練（離職者訓練）や、在職者の方々を主な対象とし、仕事を遂行する上で必要な専門知識及び技能・技術の向上を図るための職業訓練（在職者訓練）、事業主の方々等に対する従業員の人材育成における課題解決のための能力開発に関する相談、職業訓練指導員の派遣、施設設備の開放等を行っています。（愛称：ポリテクセンター）



★職業能力開発大学校、職業能力開発短期大学校【求】

25ヶ所

技術革新に対応できる高度な知識と技能・技術を兼ね備えた実践技能者（テクニシャン・エンジニア）の育成、さらに、職業能力開発大学校においては、産業界や地域のニーズに応じて、新製品の開発、生産工程の構築等に対応できる将来の生産技術・生産管理部門のリーダーとなる人材の育成を行っています。（愛称：ポリテクカレッジ）



★広域障害者職業センター／障害者職業能力開発校【障】

2ヶ所

障害者職業センターと障害者職業能力開発校の機能を併せ持ち、全国から特別な支援を要する障害者を受け入れ、医療との連携を図りながら職業評価、職業指導、職業訓練等の職業リハビリテーションサービスを提供しています。



★職業能力開発総合大学校

1ヶ所

我が国全体の職業訓練の基盤整備と質の維持・向上を図っていくため、職業訓練指導員を養成し、またはその能力の向上に資するための訓練及び職業能力の開発及び向上に関する調査・研究等を行っています。

全国各地の施設において、高齢者、障害者、求職者、事業主等の利用者に対して、様々なサービスを提供しています。



障害者職業カウンセラー職

→7Pへ



障害のある方に対する就職の相談



就職後、職場を訪問して相談・助言



職場で必要とされるコミュニケーションの支援



障害者雇用に関する事業主への支援

障害者職業カウンセラー職は、主に全国の地域障害者職業センターに勤務し、障害者に対して、ハローワーク(公共職業安定所)と協力して、就職相談、職業能力等の評価、就職前の支援から、就職後の職場適応のための援助まで、個々の障害者の状況に応じた継続的なサービスを行います(心理学、教育学、社会学、社会福祉学を学んだ職員が多く在籍しています)。

職業能力開発職

→9Pへ



離職者に対する早期再就職のための職業訓練



職業能力開発職は、「ものづくり」の技能・技術の習得やレベルアップを目指す求職者や在職者の方に職業訓練(ハロートレーニング)を行います。職業訓練のほかにも企業への技術支援や共同開発なども行う「ものづくり指導のプロフェッショナル」です(工学部:機械、電気、電子情報、建築の関連学科を学んだ職員が多く在籍しています)。



在職者を対象とした技能向上を図るための職業訓練



職業能力開発大学校等における、高度なものづくりを支える人材の育成

障害者職業訓練職

→11Pへ



見学者に対するサービス内容の説明



視覚障害のある在職者に対する職業訓練の実施



就職するための職業訓練の実施



支援方法を検討するケース会議

障害者職業訓練職は、技能・技術を習得した上で就職や職場復帰を目指す障害者に対して職業訓練を行います。特に、重度の視覚障害及び上肢障害のある方や、精神障害及び発達障害のある方や、特別な支援を必要とする障害者に対する職業訓練に力を入れています(工学系の出身で、障害者に対する支援に興味のある職員が多く在籍しています)。

事務職

→13Pへ

事務職は、配属部署に応じて、総務、経理、企画といった管理に関することや、当機構が担っている高齢者事業、障害者事業、職業能力開発事業等に関する各種イベント等の企画・運営・広報、助成金の支給業務、施設運営等、多岐に渡る業務に携わります(法学部、経済学部や文学部等、学部・学科を問わず様々な職員が多く在籍しています)。



アビリンピックの運営開催



利用者との相談業務



総務・経理関係事務



啓発業務



広報誌の発行



学校運営に対する事務業務

●わたしの1日／障害者職業カウンセラー職

素敵な出会いが自分を成長させてくれる職場



福岡障害者職業センター
平出 拓也 (平成26年採用)

【経歴】
平成26年4月 福岡障害者職業センター(現職)

現在私は、福岡障害者職業センターに所属し、障害者職業カウンセラーとして「ジョブコーチ支援」を担当しています。障害のある方が企業で働き続けられるように、企業、関係機関と連携し支援の方法や内容などを考えています。様々な企業を訪問するため大変なこともあります。頼られたり感謝されたりすることも多く、とてもやりがいを感じています。

当機構には、大学時代の病院実習で「病気になるって就職したい」との希望がある方を担当したことがきっかけで、興味を持ちました。まったく違う分野から就職したため最初は不安がありましたが、上司・先輩からの助言や充実した研修があるため、今は日々勉強しながら仕事をしています。

私もそうでしたが、全国転勤があるため、応募に躊躇される方もいらっしゃるかもしれませんが、上司や先輩・後輩、同期、地域の友人、仕事関係の人など、多くの素敵な出会いが様々な経験と成長をさせてくれると思います。皆さんと一緒に働くことを楽しみにしています。



6:30 起床

朝少し早く起きて、ランニングや筋トレなどをしていきます。朝早くから体を動かすことで、1日が楽しく過ごせるようになります。



8:45 始業

1日のスケジュールや連絡事項を職員間で共有します。その後訪問予定の企業や関係機関へ連絡します。

9:00 企業訪問

企業を訪問し、ジョブコーチ支援制度の説明や支援を担当している物理的・人的環境のアセスメントなどを行いました。企業の従業員と障害のある方、双方が働きやすい環境を作るように調整をします。



11:30 昼食

企業が遠方であったため、早めの昼食を取りました。外出が多く昼食の時間が前後することがありますが、栄養バランスを意識して取っています。



13:00 定期相談

職業センターに戻り求職中の方の定期相談と職業評価を行いました。写真は実際に作業をしてもらい、得意なこと、苦手なことを共有している場面です。このほかに適性検査などを行うこともあります。



14:00 企業見学会

障害者雇用を検討している企業の見学会に、支援を担当している障害のある方や関係機関の方に参加しました。多くの企業に訪問するため緊張もありますが、それぞれの社風や雰囲気があり新鮮な気持ちで聞くことが出来ます。



16:00 スタッフミーティング

センターが主催した研修会についての意見交換を行いました。上司、先輩に対して様々な意見を出しやすい職場ですので、次回以降に向けた実りのある話し合いが出来ました。

OFF 休日の過ごし方

旅行やランニング、飲み歩きなど外で過ごすことが多いです。様々な人や場所と触れ合うことで、とても充実した休日を送っています。写真は嵐崎宮に初詣に行った時の写真です。海と鳥居のコラボがきれいだったので思わず撮影しました。



福岡でできた仲の良い友人とヤフオク!ドームで野球観戦をしました。嵐の祭典は盛り上がるので、限定ユニフォームを着て気合を入れて応援しています。

16:30 在職中の方との相談

在職中の方と相談をしました。働くなかでの悩みを定期的に確認し、支援方針の検討をするようにしています。



17:00 終業

平日は職場の近くのジムに寄って汗を流すことが多いです。翌日が休みの日には先輩や友人とよく食事に行っています。ついつい飲みすぎてしまうことが多いですが、様々な出会いがあり仕事の活力につながります。

育児と仕事の両立が可能



千葉障害者職業センター
青木 雅代 (平成20年採用)

【経歴】
平成20年4月 大阪障害者職業センター
平成22年4月 富山障害者職業センター
平成23年4月 本部納付金部・障害者助成部兼務
平成25年4月 千葉障害者職業センター(現職)

私は現在、就職したいというご希望をお持ちの障害のある方に対し、就職活動の進め方のアドバイスや支援内容をご提案させていただく職業相談・職業評価を担当しています。

ご相談にいらっしゃる方のご希望やこれまでの経緯は様々で、ご病気や障害などの理由でお仕事を休職されている方に対し復職のご相談に応じることもあります。職業センターを利用される方が何を希望し、どんなサポートがあると効果的か、地域の社会資源の状況も踏まえながら多面的な視点で支援させていただき、就職や復職に向けた一歩を踏み出すお手伝いができた時にはとてもやりがいを感じています。

私生活では、一昨年出産し、1年間の育児休業を経て復帰しました。機構には育児と仕事を両立できる制度が充実しており、職場の方々の理解もあったのでスムーズに復帰できました。また、同じ職場に育児と仕事を両立して働く先輩カウンセラーが沢山いるため、仕事だけでなく育児の相談もしながら楽しく毎日を過ごすことができています。皆さんと一緒に働くことを心待ちにしています。

8:45 始業

子どもの朝食と保育園の送りが夫が担当しており、私は定時に出勤しています。



9:30 職業センター業務説明会

職業センターの利用を検討されている方や関係機関を対象とした説明会を行っています。初めてご利用される方に対して、職業センターの支援内容を分かりやすく伝えられるよう心がけています。



10:00 個別相談

業務説明会後、相談を希望された方に初回相談を行っています。来所された方のニーズやどのような支援をご希望されているのかについて確認します。



11:30 ミーティング

職業相談・職業評価担当のカウンセラー間で、個別相談を実施した方についての情報共有や担当を決めるためのミーティングを実施します。



12:15 昼食

昼食は自席でとっています。ランチタイムは近くの席のカウンセラー達と雑談しながら過ごしています。



13:00 職業評価

利用者のご希望を踏まえながら様々な検査や作業を行い、働く上での得意なこと、苦手なことを整理しています。また、整理した内容をご本人にお伝えし、どのようなサポートがあると安定して働けるのかについて相談しながら進めています。



15:40 退勤

育児部分休業という制度を活用し、早めに退社しお迎えに行っています。子どもの笑顔を見ると一日の疲れも吹き飛びます。帰宅後は、夕食や子どもとお風呂、寝かしつけをしています。



OFF 休日の過ごし方

最近では、子どもが外に出て歩くのが好きなので、家族3人で近くの公園に行くことが多いです。公園では子どもといっしょに体を動かしています。



●わたしの1日／職業能力開発職（職業訓練指導員）

一人前の職業訓練指導員を目指して



京都職業能力開発促進センター
小山田 孝輔 (平成28年採用)

【経歴】
平成28年4月 京都職業能力開発促進センター(現職)

私は現在、職業訓練指導員として必要な能力を身に付けるための指導員養成研修(長期養成課程)を受講しています。指導員養成研修は入構時の経歴に応じて採用時から1～2年間程度の期間であり、東京都小平市にある職業能力開発総合大学校での座学・実習と配属先施設での施設実習で構成されています。

職業能力開発総合大学校では、指導技法やキャリア・コンサルティング技法などの指導員に必要な知識を理論的に学びます。グループワークなども多くあり、指導員に必要とされるスキルを身に付けることができます。さらに、その知識を活用し配属先での施設実習で実践しています。理論と実技の段階的カリキュラムは相互に学習作用があり、日々の研修で指導力や技能が身に付いていると実感できます。

施設内は、先輩指導員のあたたかい指導や事務職の方々との交流もあり、楽しく働くことができます。

職業訓練指導員は、利用者の生活の基盤となる「仕事」に関わることができるという責任ある仕事ですが、同時に大きなやりがいを感じる仕事です。近い将来、皆さんと一緒に仕事ができることを心待ちにしております。

8:45 朝礼

一日は朝礼から始まります。必要な内容はすべてメモを取り、一日の準備をします。



9:00 授業聴講

先輩指導員の授業を聴講します。今日は基礎製図の授業です。訓練生の興味を引く方法や授業の展開など学ぶべき点は無数にあります。授業の中で気になった点を相談することもあります。丁寧に教えてもらえます。

12:15 お昼

昼食は近所のお店で食べました。職場の先輩方と行くことも多いです。午後に向けてエネルギー補給です。



13:00 研修課題作成

午後は研修課題に取り組みます。課題は様々なものがありますが、今は授業を行うために指導案の作成をしています。課題がなかなか進まないこともあります。その時は先輩方に相談に乗ってもらうことで、疑問や問題をクリアすることができます。



14:30 実習練習

授業実践にむけて、先輩指導員の指導の下で旋盤作業の練習中です。訓練生からの質問に答えられるように幅広く勉強する必要があります。



16:00 業務補佐

翌日の授業の準備を行います。製図道具が必要なので、人数分準備します。その他、機械のメンテナンスや、教材作成など、業務は多岐にわたります。



AFTERS

仕事帰り(食会)

先輩方と交流会です。関わることの少ない他系の方と交流することができ、とても有意義な時間です。また、仕事以外のアドバンスなども聞けるチャンスです。



OFF

観光

休日は京都観光に出かけます。京都は随所に観光名所があるので、毎週違う神社・お寺に行くのが楽しみです。お気に入りの伏見稲荷大社！無数に続く鳥居が神秘的です。



趣味・DIY

趣味は愛車のメンテナンスです。自分で整備することで愛着が深まります。整備後は、いつものドライブコースで試運転。不具合があれば直るまで修理します。



17:00 帰宅 1日の研修日報をまとめて帰宅します。

教え子の活躍が仕事の原動力



北海道職業能力開発大学校
水尾 準 (平成11年採用)

【経歴】
平成11年4月 栃木職業能力開発促進センター
平成15年4月 石川職業能力開発短期大学校
平成21年4月 会津職業能力開発促進センター
平成24年4月 北海道職業能力開発大学校(現職)

私は現在、北海道職業能力開発大学校の応用課程 生産電気システム技術科の担当をしています。

大学校では1学年20名の少数人数教育で、学生と密接に関わるため、すべての学生の特徴が把握でき、修了間近になるとほとんどの学生の成長を実感することができます。もちろん、学生の個性も様々ですので、大変な時もあります。時には小言を言う時もあります。しかし、就職内定の報告を受け、「先生、ありがとうございます!!」という感謝の言葉を聞くと、「また明日もがんばろう」という活力が湧いてきます。

また、企業の人事の方と話す機会もあり、「修了生の○○君はがんばっていますよ」という言葉を頂くと思無量になります。

人を相手にする以上、マニュアル的な対応が難しい時や、反省等は常にあります。しかし、それ以上に学生の成長を身近に感じられ、社会で活躍できる人材を育てる楽しみがあります。私にとって指導員の仕事は生涯携わりたい仕事だと思っています。

6:45 起床

起床後は家族と一緒に朝食を食べます。子供二人は小学生なので慌ただしい朝となります。

7:45 自宅出発

電車内ではお気に入りの音楽を聴きながらリラックスして職場に向かいます。

8:30 職場到着

その日のスケジュール、授業で使う資料の確認をします。

13:15 各種会議

在職者訓練に関する会議があり、進捗状況や次年度計画について検討しました。その後、系会議がありました。系会議では電気系指導員全員で今後の学生募集の方法等の議論をしました。



17:00 退勤

職場から最寄りの駅までは徒歩で20分くらいですが、一日をリセットできる貴重な時間となります。

18:30 家族との時間

家族との時間が一番落ち着きます。テレビを見たり子供達と話しをしたり、ゆっくりと過ごします。

AFTERS

仕事帰り(食会)

職場の懇親会です。普段、厳しい先輩はこの時は笑顔が絶えません。



OFF

休日の過ごし方

休日は家族サービスにあてています。冬場は雪遊びをしたりスキーをしたりしています。また、北海道は広くて観光に行きたい場所がたくさんあります。



●わたしの1日／障害者職業訓練職（職業訓練指導員）

多くの障害のある方が就職できることを目指して



国立吉備高原職業リハビリテーションセンター
菱川 和真（平成25年採用）

【経歴】
平成25年4月 国立職業リハビリテーションセンター
平成28年4月 国立吉備高原職業リハビリテーションセンター（現職）

私は、国立吉備高原職業リハビリテーションセンターで、精神障害・発達障害・高次脳機能障害のある方を対象にした職業訓練を担当しています。

障害者職業訓練指導員は、受講者の希望や性格、障害特性などを十分に把握した上で、技能・技術習得の手助けや就職する上での課題など共に考えながら日々職業訓練をしています。また、希望する企業の見学や実習に同行する支援なども行っています。

受講者は、今後の職業生活において不安を感じている方も大勢います。1年間の訓練目標として専門の技能・技術、障害に対する自己認識、就職活動において必要となる社会適応能力やビジネスマナーの習得など多くあります。指導員は、限られた期間のなかで個々に応じた訓練を設定し、より実践的な教材の作成や、その運用が求められます。また、他の指導員や障害者職業カウンセラーと協力したチーム支援を行うことが必要です。時には指導の仕方で悩んだ時期もありましたが、受講者が就職するために訓練に一生懸命取り組む姿を見ると、受講者から仕事について指導員が教えられることもたくさんあり、もっと努力しなければいけないと考えさせられます。現在は、培った受講者に対する効果的な指導方法などのノウハウを受講者だけに還元していくだけでなく、多くの障害のある方の明るい未来のために、他の障害者職業能力開発校等に積極的に普及させていきたいと考えているようになりました。そして、少しでも多くの障害のある方が、自身の希望する企業に就職することを望んでいます。ぜひ興味を持っていただき、応募を検討されている方は一緒に働いてみませんか。

8:55 朝礼

受講者とともに朝礼を行います。指導員は連絡事項や健康状態の確認を行い、受講者は当日の訓練目標を発表してもらいます。



9:00 ラジオ体操・ウォーキング

受講者と一緒にラジオ体操と15分程度のウォーキングを行うことで基礎体力養成と健康維持管理を行います。



9:45 訓練開始

こちらは物流業における商品の積み下ろしを行っています。物流の一連の流れ（受注・集荷・検品等）を把握し、受講者が協力して、迅速かつ安全に商品を積載・運搬できることを目標に訓練しています。



12:20 昼休憩

昼食は、ダイエットの経歴から健康を意識し、野菜を中心としたヘルシーな献立にしています。



13:10 午後訓練

こちらの受講者は、事業所での職場実習に向けたねじ締め作業を行っています。事前に想定される作業を反復し、技術を磨きます。また、就職に必要なワープロ、表計算ソフトの操作方法や事務補助業務等の訓練も行っています。



15:30 ミーティング

週1回ミーティングを実施します。翌週の業務連絡、受講者の訓練進捗状況や今後の訓練予定などを話し合い、情報を共有します。



OFF

18:30 トレーニングジム

ストレス解消や健康管理の為に、週2回のペースで市内のトレーニングジムに通っています。また、地域のマラソン大会にも毎年参加したりしています。（写真は、おかもまマラソン2016に参加し、見事完走した時のものです。）



16:30 1日のまとめ・教材作成

ミーティングで話し合った内容を元に、担当受講者の今後の訓練予定などを計画します。また、既存の教材の見直しや新規教材の開発も行ったりします。



17:05 退勤

翌日の訓練の準備が終わり次第、帰宅します。

訓練生一人ひとりの人生に寄り添う仕事



国立職業リハビリテーションセンター
高橋 史洋（平成22年度採用）

【経歴】
平成22年4月 国立職業リハビリテーションセンター（現職）

私は国立職業リハビリテーションセンターで、障害のある方を対象に、機械製図に関する職業訓練を担当しています。

当センターでは、多くの方に訓練を受講していただくために年間13回の入校機会を用意しています。さらに、受講者の障害の状況に合わせた個別カリキュラムによる訓練を行っています。現在私が担当している機械製図科ではCADソフトを使った設計・製図の訓練や手仕上げや工作機械を用いたものづくりの訓練を行っています。

訓練生の、「健常者の方と同じように働きたい、興味のある分野で仕事をしたい」という意欲的な姿勢を見ると、何とか力になりたいという気持ちになります。また、訓練修了後のアンケートで感謝の気持ちが書かれていると本当に嬉しいものです。

訓練生一人ひとりの人生について、一緒に考えていくという重要な仕事です。大変な事もありますが、それにもましてやりがいや感動もあります。やりがいを感じたい方は是非、一緒に働きましょう。

8:50 朝の体操・朝礼

毎日の訓練は体操から始まります。障害状況に応じてできる範囲で体を動かします。朝礼は訓練生が司会を行います。聴覚障害の方もいるので指導員が手話や筆談を使って対応します。



9:00 午前の訓練

朝礼が終わったら、個別に健康チェックを行って訓練生の体調を確認し、訓練開始です。この日はCADを使って製図の訓練指導をしました。



12:20 昼休憩

お昼は仕出し弁当を取っています。職場の皆さんと一緒に昼ご飯です。この仕出し弁当は安くておいしいので好評です。



13:05 ケース会議

午後の訓練開始前には訓練状況を確認する打ち合わせを行っています。皆で均質な訓練指導をするためには、情報共有はとても重要です。



13:20 午後の訓練

この日の午後は、やすりを使った手仕上げ訓練を担当しました。実際に作る作業は段取りが重要なので、個別に指導するのはとても有効です。



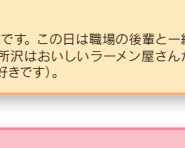
16:00 訓練準備・事務作業

訓練が終わったら、次回以降の訓練の準備を行います。また、訓練状況の記録や資料作成などの事務作業や、会議等も行います。



17:00 退勤

明日の準備が全て終わったら帰宅です。この日は職場の後輩と一緒にラーメンを食べて帰りました。所沢はおいしいラーメン屋さんが多いので幸せです（ラーメンが大好きです）。



OFF

休日 車でドライブ

就職してから買った車でドライブです。後輩の職員と相模湖の方まで出掛けました。



●わたしの1日／事務職

人材育成の計画から実施、フォローアップまでの一貫したサポート



浜松職業能力開発短期大学校

荻野 友香 (平成24年採用)

【経歴】
平成24年4月 宮城職業能力開発促進センター
(現宮城支部)
平成27年4月 浜松職業能力開発短期大学校
(現職)

浜松職業能力開発短期大学校(ポリテクカレッジ浜松)にて、学務援助課援助係員として日々業務に取り組んでいます。

私の所属する援助係の業務の大きな目標は、地域の企業における人材育成上の課題等を解決することです。

具体的には、中小企業で働いている従業員の方々のスキルアップを目的とした「能力開発セミナー」(在職者訓練)を中心に、教室や実習場を企業の方に貸し出す「施設貸与」や事業主向けの「人材育成相談・援助」などを通して、働く様々な立場の方々に応援しています。

人材育成の計画から実施、フォローアップまで一貫してサポートできる点は、多様な事業を行っている機構ならではの、職員として働く魅力のひとつだと思います。

当機構への応募にあたって、全国転勤や部署の異動を心配している方もいらっしゃるかもしれませんが、

環境の変化は誰でも不安を感じるものですが、色々な業務の経験や、地域での生活を前向きに考えていれば周囲の方も助けてくれます。意外となんかかなと思います。皆さんのご応募をお待ちしています。

8:45 朝礼

課全体で1日の予定を確認します。外出の予定があるときはこの場で情報共有をして訪問先へ向かいます。仕事を進める上で、課内の情報共有を大切にしています。



9:00 メールチェック

当機構を利用される企業担当者の方には主にメールでやりとりをしています。

9:30 ホームページの更新

能力開発セミナー(以下「セミナー」)の申込み状況等を月2回程度更新しています。オープンキャンパスなどの学校行事があるときはホームページ用に写真を撮影して掲載しています。多くの方に興味をもっていただけるよう、見やすいホームページを目指しています。



11:00 請求書の作成

セミナーの受講料や施設利用料をお支払いいただくための請求書を作成します。請求先や請求額に誤りがないよう気を付けています。受講者へ請求書を発送するときは必ず他の職員にもう一度確認してもらい、間違いないようにします。



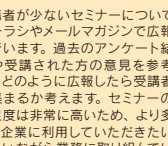
12:15 昼食

食堂で昼食を食べます。日替わり定食は3種類あります。特にハンバーグやチキン南蛮は学生に人気ですぐに売り切れてしまいます。食べ盛りの学生のため、量が多く、お手頃な価格設定ですが、私には多いのでご飯を減らしてもらっています。



13:00 受講者募集チラシの作成

受講者が少ないセミナーについてはチラシやメールマガジンで広報を行います。過去のアンケート結果や受講された方の意見を参考に、どのように広報したら受講者が集まるか考えます。セミナーの満足度は非常に高いため、より多くの企業に利用していただきたいと思いながら業務に取り組んでいます。



15:00 団体・事業所訪問

私の仕事はデスクワークが中心ですが、事業主団体や事業所(企業)に訪問して人材育成の相談を受けたり、当校の業務を広報したりすることもあります。



OFF

休日の過ごし方

休日は名古屋や東京、大阪などに買い物へ行くこともあります。浜松はアクセスが良いので便利なお店です。写真は万博記念公園(大阪府吹田市)に行ったときのものです。



別の日

イベント

オープンキャンパスや学校祭は校をあげてのイベントであるため、部署関係なく手伝います。また、年に数回、地域のイベントにブースを出展して当校をPRします。昨年は学生が出場する大会(若年者ものづくり競技大会など)の応援に行きました。学生が努力している姿を見ると、自分も頑張らなくてはという気持ちになります。



17:00 終業時間

終業時間が近づいてきたら次の日のセミナーや施設貸与の準備をします。滞りなくセミナーなどが実施できるよう注意します。



事務職は業務を円滑に進めるための調整役！



奈良職業能力開発促進センター

池崎 毅 (平成15年採用)

【経歴】
平成15年4月 岐阜センター
平成18年4月 本部雇用管理部
平成21年4月 厚生労働省(研修)
平成23年10月 本部総務部、求職者支援訓練部
平成26年4月 奈良職業能力開発促進センター(現職)

現在所属している奈良職業能力開発促進センターでは、離職者訓練と在職者訓練を担当しています。

離職者訓練は離職中の方が早期に再就職ができるように、また、在職者訓練は主に中小企業の従業員の方が技能や技術の向上を目的にものづくり分野(建築、機械加工、溶接、電気)の訓練を実施しています。

実際に授業を担当するのは、指導員の先生方ですが、事務職は、離職者、在職者訓練全体の業務が円滑に進められるように様々な調整を行うのが役割です。

業務においては、一人では解決できない課題もありますが、上司や同僚と連携しながら、受講者や事業主の皆さんに満足していただけるように日々努めています。

当機構の業務は、国の施策を実現するための直接的な立場で仕事ができるため、とてもやりがいのある仕事です。また、様々な場所で様々な業務を経験することも魅力の1つだと思います。これらに魅力を感じる方は、是非当機構への入講を検討してみてください。

皆さんと一緒に働くことを楽しみにしています。

8:45 朝礼

毎朝、朝礼時に管理職から本日の各課の予定について、連絡があります。自らの業務に必要な行事や管理職の予定等を把握します。また、各指導員の先生に対して連絡する事項があれば、朝礼時に連絡します。

9:30 入所ガイダンス

離職者訓練の入所は年に9回あり、入所式の1週間ほど前に入所予定者に対して「入所ガイダンス」を実施しています。入所ガイダンスでは、進捗や必要書類の記載方法などの説明を行います。



11:00 事務作業

業務をスムーズに進められるように関係機関や同僚と打合せを行います。



12:15 昼休憩

昼休み休憩中に訓練生から相談があることも多いため、昼食は、自分の席で持参した弁当を食べます。



14:00 ハローワーク訪問

ハローワークの相談窓口に対して、離職者訓練の募集の協力依頼やハローワーク主催の説明会に参加させていただき、離職者訓練のPRを行います。



16:00 入所式等のイベントの準備

入所選考、入所式等のイベントに備え参加者に配付する資料の作成や会場設営を前日までにしています。



16:30 業者との打合せ

離職者訓練や在職者訓練の受講生募集案内のためのパンフレットやポスターを作成するために、業者と打合せを行います。



OFF

18:30 業務終了後、休日

業務終了後や休日は、自宅や近くの公園で子供と遊ぶなどしてリフレッシュします。





皆さんに近い存在である入構2年目の若手職員に、志望動機、入構前に感じていた不安、実際に働いてみた感想を語ってもらいました。

Q 当機構を知ったきっかけと志望動機について教えてください。

大沼: 私の場合、職業能力開発総合大学校(以下「職業大」)に入学したことがきっかけです。入学後、職業訓練指導員(以下「指導員」)の仕事や機構の役割について知り、指導員は様々な年代の方に職業訓練を実施するというところに面白みを感じ志望しました。元々人と話すことが好きだったということも志望動機の一つです。

黒木: 私は大学で社会福祉関係を学んでいたのですが、実習等を通して障害のある方が企業で働けるようにサポートしたいという思いから、障害者への就労支援に興味を持ちました。また、大学の先輩が障害者職業カウンセラー職(以下「カウンセラー」)として当機構で働いていることを知り、それが志望動機となりました。

齊藤: 私は大学で地域の活性化について研究をしていた際、街づくりをしている方やそこで暮らす高齢者の話を聞く機会があり、働く意欲のある方々がたくさんいる、一方で実際に働けない人もいるということを感じ、「雇用支援」とWebで調べたところ当機構が高齢者、障害者、求職者と幅広い方々を対象に支援をしていることに興味を持ち志望しました。

後藤: 私は大学受験の時に職業大を調べる過程で機構について知り、大学で先生たちの仕事を見る中で、機械について人に教えることに興味を持ちました。障害者職業訓練職(以下「障訓練職」)として働いていますが、それは職業大在学中に国立職業リハビリテーションセンターに実習に行ったことがきっかけです。

Q それぞれの志望動機があり、現在機構職員になったわけですが、採用試験受験時に皆さんはどんな試験対策をしましたか。

大沼: 私は1次試験の筆記試験対策として、比較的薄い適性検査対策の参考書を一通り解きました。公務員試験対策をしていなくても大丈夫だと思います。2次試験では、自分が志望する分野での説明力確認があり、私は溶接で受験しました。説明力確認対策としては授業のノートを見直したり、人前で話す時に緊張しないようにと思いながら行いました。

後藤: 障訓練職を受験したので、障害の特性などを勉強したり、大学の研究室の先生に模擬面接をお願いし、対策しました。また、説明力確認については、基本的な内容でしたので。大学の授業の振り返りで十分対応できました。また、限られた時間内で分かり易く伝えるために、話し方や板書方法などの練習をした方が良いと思います。

齊藤: 事務職は1次から3次まで面接試験があり「人物重視」という印象を持ったので、自分の考えをちゃんと伝えられるようにしようと思って臨みました。事務職の仕事について理解するため、機構のHPや採用案内で情報収集し、どんな仕事に携わりたいかを話せるように準備しました。筆記については、とりあえず公務員試験対策を、小論文については、2、3回事前に書く練習をしました。

黒木: カウンセラー職は、2次で専門試験がありましたが、社会福祉士の国家試験の勉強をしていたので、そちらで対応できました。小論文は最近の福祉の情勢について大学の先生に聞いたりWebで調べたりしました。面接については、大学の先生や友人に協力してもらい対策をしました。

Q 入構前に感じていた不安やそれに対する入構後の心境の変化がありましたか。

大沼: 配属先の関西職業能力開発促進センターは比較的大きい施設と聞いていたのですが、ちゃんとやれるのだろうかと不安に思いました。しかし、新人研修終了後、配属先に赴任した際とても温かく迎えられたので、それだけで不安が減ったように感じます。また、新しい土地に住むことにも不安はありましたが、職員の皆が同じように転勤を経験していることもあり、いろいろな面において温かくフォローしてくれます。

後藤: 私の場合は、周りの先輩の話を聞く中で、何処へ行ってもその土地にすぐに馴染めると感じていたので赴任地に対する不安はなかったです。しかし、障害のある方にどのようにして訓練を行うのか不安がありました。実際に訓練生とやり取りをする中で、それぞれの性格の延長線上に障害特性があると思うようになり、お互いに人として認めあっていけば、上手く信頼関係を築いていけると感じています。

齊藤: 入構前は、慣れない土地に行って働くということ、そこに馴染めるのかと不安はありました。しかし、先輩方が生き生きと働いている姿を目の当たりにし、楽しいことも多く、自分から積極的になることで良い方向へ心境が変化しました。旅行が好きだったということもあり、その土地でしか味わえないものや観光地などを職場の人とも楽しめるという風に少し視点を変えるだけで、仕事だけでなくプライベートも楽しくなると感じています。また、休日や休暇をしっかりと取れることも機構の良さだと思います。

黒木: 私も、知らない土地に不安はありましたが、カウンセラーは研修

期間が長いので同期の仲が良く、富山に来てからも支え合いながら頑張っています。また、先輩方も様々な経験をされていて、同じ気持ちを分かってくれるのでいろいろと声をかけてもらい不安も解消しました。あと、地域のサークルに参加し、そこで仲良くなった方と交流を持っています。今では、その方の実家に招いてもらい富山の郷土料理をご馳走になったり、一緒に旅行に行ったりと楽しんでいます。

Q 現在担当している業務内容及び仕事のやりがいについて教えてください。

大沼: 私は溶接分野の訓練を担当しています。訓練生は年齢層の幅が広く、怪我をさせず再就職というゴールに向けて頑張ってもらうため、時には年上の方に対しても厳しいことを言わなければならない場面もあります。また、就職活動の支援では、「先生のおかげで無事新しい人生の一步を踏み出せて良かった」といった感謝の言葉をもらえるところが指導員の醍醐味であり、一番嬉しいところです。また、担当していた訓練生が再就職後も継続して働いている状況を聞いたとき、とてもやりがいを感じます。

齊藤: 私は、求職者支援訓練の認定審査業務を担当しています。民間教育訓練機関から提出された訓練計画の審査において、訓練計画に対する助言や相談を通して訓練を受講される方が満足できるように心掛けて取り組んでいます。受講者アンケートの中で、私が審査に携わった訓練を受講して良かったとか、求職者支援制度をもっと色々な方に知って欲しい等の意見があると、人の役に立っていることを実感すると共に、この業務に携われて良かったとやりがいを感じます。

後藤: 私は障害のある方にパソコンの事務処理ソフトの使用方法やデータ処理などを教えています。また、ビジネスマナーの指導もします。障害は人それぞれで、どのように指導していくか考えたり、人間としての内面に触れていく面も多々あり非常にやりがいを感じています。技能面はもちろんです、訓練修了時に人間として大きく成長している方もいて、この人と関わって良かったなと感じることができます。自分の作成した訓練教材で学んでくれるということも嬉しいですね。

黒木: 私は職業準備支援という事業を担当しています。これから就職を目指したいとか、働き続けたいという障害のある方に、地域障害者職業センターに個々に応じた期間通っていただき、様々な作業



障害者職業カウンセラー職



職業能力開発職



障害者職業訓練職



事務職



を通して自分に合った働き方を見つけたり、面接の受け方等就職活動に役立つ知識を身につけていただくものです。利用者が就職できた時や、支援プログラムの中で学んだことを就職先でも活かそうと努力している場面に出会った時は、やっていて良かったなとやりがいを感じます。

Q 最後にこれから機構を目指す応募者へのメッセージをお願いします。

後藤: それぞれいろいろな不安があるかと思いますが。私は人の前でしゃべるのが苦手だったので不安がありましたが、入構してみると上司や先輩からのフォローがたくさんあるので、苦手も克服し、少しずつできるようになっています。職場の雰囲気がとても良いので、働きやすいです。多くの皆さんのご応募をお待ちしています。

齊藤: 機構の幅広い業務、特に事務職の多岐に亘る仕事は自分自身の可能性を大きく広げてくれるものだと感じています。また、「人の役に立っている」と感じることもできるのも魅力です。不安をひとつ置いて、機構の事務職に関心を持たれた方、どんなことでもできるという気持ちを高く持って臨んでいただければ大丈夫だと思います。是非頑張ってください。

黒木: 大変なことや不安なこともあります。周りの先輩方がフォローをしてくれる風通しの良い組織風土があります。また、職業人としてキャリアアップしていくための研修制度も整っている点も魅力です。そして、結婚し、子育てをしながら働いている先輩方もたくさんいるので、そういった面でも非常に働きやすい環境があると感じます。当機構に興味・関心を持たれた方と一緒に働ければと思います。

大沼: 「職業訓練指導員」は、幅広い年代の様々な人生経験を持たれている方に対して技能・技術を指導することができる他にはない仕事だと思います。そのような訓練生と日々接していく中で、自分自身が得られるものもとても大きいです。「職業訓練指導員」という仕事に少しでも興味を持たれた方、皆さんと一緒に働ける日を心からお待ちしております。

●先輩職員からのメッセージ

●障害者職業カウンセラー職



福井障害者職業センター

渡辺 寛子

(平成28年採用)

【経歴】

平成28年4月 福井障害者職業センター(現職)

障害者職業カウンセラー補として学んだこと……………

私は大学時代、地域で生活する障害のある方を支援する機関で実習やアルバイトを行っており、重度の障害がありながらも自立した生活を送っている方と多く出会いました。その中で、働くことは生活を支える重要なものであるにも関わらず、障害があるがゆえに自由に選択できるはずの職業を選択できない方が多いことも知りました。そのような方を支援したいと思い、全国規模で先進的な支援や研究を行っている当機構を志望しました。

障害者職業カウンセラー補として入構し最も感じたことは、研修制度が非常に充実している点です。本部での前期合同講習では、座学やグループワーク等を通して障害特性や就労支援に関する基礎知識を学びます。その後の赴任地での実地講習では、経験豊富な先輩カウンセラーや周りの職員の方々から丁寧に指導を受けながら、実践的に学んでいくことができます。

実地講習の後半からは実際に私も相談の対応を行うようになり、先輩カウンセラーから助言を頂きながら、少しでも就職の可能性を広げられるような提案をしていきました。その際、既存の支援の型にはめていくのではなく、一人ひとりのセールスポイントや苦手な面を的確に把握し、新しい道を開く創造力が非常に大切であると感じました。

現在、約7か月間の実地講習を経て、さらに理解を深めるために後期合同講習へ臨んでいるところですが、研修を終えた後も、学ぶ姿勢を持ちながら支援を行ってまいります。このような障害者職業カウンセラー補として充実した体験を通じて、皆さんも「新しい道」を開いてみませんか。



北海道障害者職業センター

瓜生 彰

(平成20年採用)

【経歴】

平成20年4月 東京障害者職業センター

平成23年4月 北海道障害者職業センター(現職)

魅力は、スケールの大きい仕事ができること……………

私がこの仕事に興味を持ち、前職の医療ソーシャルワーカーから転職したのは30歳の時でした。全国転勤の不安は多少ありましたが、全国ネットというスケールの大きさはメリットでもあると考えました。実際、引越しの大変さは一時的なもので、腰を落着けてしまえば新天地での生活を段々と楽しむ余裕が生まれます。住むはずのなかった土地に住み、出会うはずのなかった人達に出会えることは、全国転勤でしか味わえない経験です。

私は現在、障害者雇用に取り組み企業の支援を担当しています。イメージにいかにもしませんが、私が担当している利用者は、企業の経営者や人事担当者です。職場を訪問・見学し、企業のニーズや職場環境を把握・分析して職務設計を提案したり、社内の理解を深めるための社員研修を実施したりして、障害者雇用の実現に向けて企業をサポートします。やりがいを感じるのは、企業が障害者雇用について理解を深め、障害のある人が戦力となって働き、「雇ってよかった」「働いてよかった」と双方に思ってもらえることです。

障害者、企業、関係機関に対して専門的な支援を行う障害者職業カウンセラーは、障害のある方が「働く」に関わるスペシャリストと言えます。難しく感じるかもしれませんが、経験年数に応じた研修制度が充実していますし、頼りになる先輩がいるので、安心して働くことができます。さらに、当機構は各都道府県に設置されている地域障害者職業センターの経験や支援ノウハウを本部で集約・蓄積したり、それらを基に研究部門で先駆的な支援技法を開発し、各地域に普及させたりといった、全国ネットならではのスケールの大きい仕事に携わることができるという魅力もあります。

ぜひ、全国ネットのスケールを生かした仕事に携わることのできる当機構で、障害者雇用のスペシャリストへの道を歩んでみませんか。

●障害者職業訓練職（職業訓練指導員）



国立職業リハビリテーションセンター

大川 淳也

(平成26年採用)

【経歴】

平成26年4月 国立職業リハビリテーションセンター(現職)

人から学ぶ仕事……………

現在、私は国立職業リハビリテーションセンターにおいて事務系職種への就職を目指す視覚障害のある受講生の職業訓練コースを担当しています。訓練では主にパソコンを活用して文書作成や表計算ソフトによるデータ集計を指導しています。パソコンの訓練を進める中で「このボタンを押してください」と伝えた際、受講生から「どこってどこですか?」と質問され、自分の指示が視覚情報に頼りすぎている、受講生に伝える情報として障害特性に対する配慮が不足していたことに気がつきました。このことを教訓に、受講生個々の特性を理解することを第一に考え、正確かつ効果的なアドバイスとなるように意識して指導に努めました。教材作成や情報の伝え方を工夫することにより、説明した内容が受講生に正しく理解され、作業が適切に行われて課題ができるようになる過程を経験したとき、指導員としての達成感ややりがいを感じるとともに、自分の役割の意味が見えてきました。

障害のある受講生を指導するのは難しいと感じる方もおられると思います。私は採用時に障害に関する知識はありませんでしたが、研修の受講や先輩指導員の指導を受けながらゼロから学んできました。訓練の指導経験や支援ノウハウを本部で集約・蓄積したり、それらを基に研究部門で先駆的な支援技法を開発し、各地域に普及させたりといった、全国ネットならではのスケールの大きい仕事に携わることができるという魅力もあります。

ぜひ、全国ネットのスケールを生かした仕事に携わることのできる当機構で、障害者雇用のスペシャリストへの道を歩んでみませんか。



国立吉備高原職業リハビリテーションセンター

長谷川 秀樹

(平成21年採用)

【経歴】

平成21年4月 国立職業リハビリテーションセンター

平成27年4月 国立吉備高原職業リハビリテーションセンター(現職)

障害者に対する職業訓練の最前線……………

私は現在岡山県にある国立吉備高原職業リハビリテーションセンターで、知的障害のある方を対象とした職業訓練を担当しています。当センターでは、知的障害の他にも身体障害、精神障害、発達障害、高次脳機能障害等のある方を、主に西日本を中心に広範囲から受け入れています。近年では複数の障害を併せ持った重複障害の方も多数受け入れており、指導には障害に関する高い専門性が求められます。施設内の職業訓練だけでなく、就職活動における面接同行や、職場実習支援等でも企業にも訪問します。訪問時には、企業が求める人材を職業訓練により育てるため、積極的に企業から情報収集を行い、それを基に職業訓練を行っています。

また、当機構の障害者職業訓練職には、日々指導や、就職支援などで培った支援ノウハウを全国の障害者職業能力開発校に普及するという使命があります。受講者だけではなく、現場で支援を行っている指導員の前で指導技法に関する講義を行うということです。日本における障害者職業訓練の発展の一端を担っていると言っても過言ではなく、責任のある業務であります。したがって日々の自己研鑽が求められますが、上司や先輩指導員、ともに働く仲間たちと相談できる環境と、体系的な研修制度があり、今まで安心して業務に取り組んでいくことができました。多忙な日々ではありますが、受講者が成長し羽ばたいていく姿に出会ったり、技法普及という仕事で日本の障害者支援に役立つことを考えると、とてもやりがいのある仕事だと思えます。ぜひ、皆さんとやりがいを共有したいと思えます。

●職業能力開発職（職業訓練指導員）



関西職業能力開発促進センター

瀧内 なつみ

(平成24年採用)

【経歴】

平成24年4月 関西職業能力開発促進センター(現職)

“人”と“ものづくり”の架け橋……………

私は職業訓練指導員として電子回路やプログラミングの訓練を担当しています。電気は目に見えないため、はじめて学ぶ方への教え方に苦労しながらも「どうすれば興味を持ってくれるかな」と、訓練の進め方や教材を自分なりに工夫することに日々面白さを感じています。

また、訓練内容をものづくりの現場を踏まえた実践的なものにするために、「短期企業派遣研修」を受講しました。当研修は、企業の現場における仕事や問題解決方法を習得する研修です。私は約1ヶ月の研修で回路設計に携わり、普段教えている電気理論や計測器の使い方が、現場では基本であるとともに大変重要であると教えていただきました。また、製品をチームで作り上げていく達成感は素晴らしい訓練で、訓練では必ずこの感動を訓練生に伝えています。この研修での経験を記したノートは、訓練へのヒントとなる私の大切な1冊です。当機構ではこのような指導員向けの研修コースが数多く設定され、スキルアップのために受講することがあります。また、困ったときには周りの先生方に相談し、力を貸してもらっています。

仕事以外の面では、 Gospelのサークルに入り、ヨガをしたりと楽しく過ごしています。特に、大阪の方はノリがよくいつも笑わせてもらい、元気の源です。

最後に、指導員の業務は訓練を行うだけでなく、パンフレット作成や企業訪問等、多岐にわたります。これら全てに共通することは、自分が主体的に携わり工夫ができることです。そして、その自分なりの工夫の結果がダイレクトに返ってくるのが仕事をより楽しくさせます。是非、一緒に“人”と“ものづくり”の架け橋になりましょう!



沖縄職業能力開発大学校

高本 健太

(平成13年採用)

【経歴】

平成13年4月 愛媛職業能力開発促進センター

平成20年4月 静岡職業能力開発促進センター

平成24年4月 沖縄職業能力開発大学校(現職)

段取りと経験……………

職業訓練指導員とは「段取りと経験がものをいう仕事」だと、私は思っています。新任当初は経験も少ない中、年齢が一回り以上も違う訓練生への講義は、特に緊張の連続でした。うまく伝わらなかったり、質問に答えられなかったりと、苦い経験もしました。先輩からアドバイスをを受け、自分自身でも試行錯誤を繰り返し、経験を積んでいくことで、少しずつ頼られるようになり、自信を持って指導をすることができるようになりました。

現在、沖縄職業能力開発大学校において専門課程生産技術科に所属し、機械加工分野の学生と実技を担当しています。訓練の積み重ねにより、日々成長していく学生の姿を実感し、さらに就職へと結びついたとき、達成感や喜びを感じます。また、修了生が現場で働いている姿を見たときには、頼もしさを感じるとともに、自分自身も初心に戻り、気合が入ります。

転勤を伴う仕事ですが、環境が変わることによって、専門性を拡大する良い機会となっています。日常生活においても、新しい土地での出会いや生活は、職業人生を豊かにしてくれます。お世話になった先輩や同僚と、新しい場所で再び仕事ができるのもまた楽しみの一つになっています。

私たちと経験を積み重ね、ものづくりの現場を支える人材の育成に携わってみませんか。一緒に仕事ができる日を、楽しみにしております。

●事務職



熊本支部

岡部 龍男

(平成28年採用)

【経歴】

平成28年4月 熊本支部(現職)

支援の力は大きいと実感して……………

私はこれまでの人生で、学生生活や就職活動等において、うまくいかない事が多々ありました。挫折を何度も経験しましたが、その都度立ち上がり、最善策を見つけ、努力することで何とか乗り越えることができました。それができたのは、家族や周りの方々の助言や支えのおかげである、という強い思いがあります。こうした経験を振り返り、助けを必要とする高齢者や障害者、求職者の方々に対して、共感を持って親身にサポートをしたいと考え、当機構の職員を志望しました。

採用試験は、自分の思いを自分の言葉で述べることを意識しました。自分の経験に基づき言葉こそ、相手の心に何かを伝えるので、当機構を志望される皆さんも、ぜひこれまでの人生を振り返り、そこから出てくる思いを伝えてください。

私は現在経理を担当しており、支部の業務運営に必要な物品の調達や、支払いに関する様々な業務を行っています。経理業務は、高齢者、障害者、求職者への支援業務を支える「線の下の方」的な側面があります。各業務が円滑に行われるためには、各機構のルールを順守すること、業者の方々に対して適切な対応を行うことを心がけています。

熊本支部に赴任して間もなく、地震が発生しました。馴れない土地での生活と相まって不安な面も多々ありましたが、多様な経験を積まれた先輩職員方が公私にわたってサポートしてくださいます。現在は楽しく過ごせるようになってきています。復興にあたっては、多くの皆様から支援をいただき、日常が徐々に回復されていく様子をこの当りしして、普段何気なく日常を過ごすことが出来るのは、周りの皆様からの多大な支援のおかげであり、その大きさを改めて痛感しました。

当機構は全国組織ですので、仕事を通じて、これらから改めて経験をすることが出来ますし、全国に仲間が出来ることも魅力だと感じています。先輩職員の方の様に魅力的な人間に成長し、事務職として多くの人を支援していきたいと思っています。

他者貢献を大切にされている方、当機構で共に働いてみませんか。



企画部情報公開広報課 広報第二係長

大森 悠

(平成15年採用)

【経歴】

平成15年4月 本部障害者職業総合センター企画部、納付金部、障害者助成部、経理部、雇用推進・研究部

平成24年4月 福岡障害者職業センター

平成26年4月 愛知障害者職業センター(現愛知支部)

平成28年4月 本部企画部(現職)

新しい自分に出会える場所……………

私は、現在、毎月発行している高齢者雇用の啓発誌「エルダー」と障害者雇用の啓発誌「働く広場」という啓発誌の制作業務を担当しています。掲載する取材先の検討、原稿の確認など毎月スムーズに発行できるよう様々な調整するのは苦勞もありますが、読者の方から「高齢者や障害者雇用の参考になっています」などの声をいただくと、誰かの役に立っていると実感でき、やりがいにつながっています。

私自身、本部での勤務からスタートし、福岡、愛知と転勤し、現在はまた本部で勤務しています。福岡も愛知もゆかりがなく、知らない土地で働くことに不安でいっぱいでした。しかし、実際に勤務してみると、周りの職員や地域の方々と巡り合った方たちの一人ひとりが温かく、その人たちの出会いを通して仕事だけでなく私生活も充実した日々が送れたこともあり、楽しい思いはばかりです。

機構の業務は、本当に幅が広く、多くの魅力的な人たちと出会えること、様々な新しい経験ができることが魅力だと思います。振り返ってみると、自分にとって「ハードルが高い」と感じる仕事も正直ありましたが、周りの人たちの温かい励ましやアドバイスをもらいながら挑戦してみるとクリアでき、またひとつ自分が成長できたのではないかと実感してしまいました。そんな経験から、仕事をしていると厳しい場面にもぶつかれることもありますが、自分の好き嫌いでなく、前向きにやってみるといつか気持ちを変えていけるのではないかと感じています。「働く」を応援する仕事を通して、新しい自分と出会ってみませんか。

人材育成のしくみ

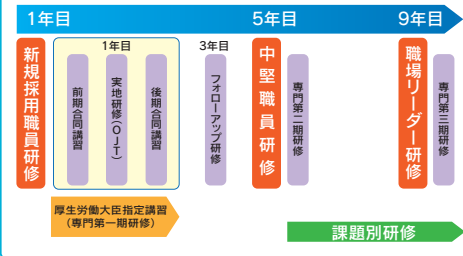
当機構では、入構後全職種共通で階層別に実施する研修のほか、採用職種に応じて実施する専門研修など、日々のOJTとともに機構職員としての資質の向上のため、様々な研修を体系的に構築し、職員の人材育成を行っています。

【障害者職業カウンセラー職】

障害者職業カウンセラー職は、最初の1年間は厚生労働大臣指定講習を受講します。指定講習修了後は、経験年数に応じた専門研修等を受講します。

- 厚生労働省大臣指定講習（1年目）前期 約6週間（4～5月）
後期 約7週間（1～2月）
（専門第一期研修）
- フォローアップ研修（3年目）5日間
- 専門第二期研修（5年目）6日間
- 専門第三期研修（9年目）5日間

※指定講習を修了すると、正式に障害者職業カウンセラーとして勤務することになります。

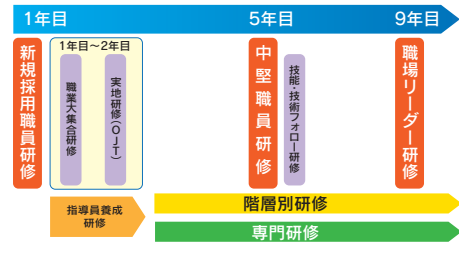


【職業能力開発職】

職業能力開発職は、指導員養成研修にて職業訓練指導員免許（国家資格）を取得し、その後は機構独自の人材育成システムに基づいた階層別、専門研修を受講します。

- 指導員養成研修（1～2年目）
- 技能・技術フォロー研修（5年目）
- 階層別研修
- 専門研修

※指導員養成研修では、修士の学位取得が可能な修士コース（選考試験有、受講経費自己負担）を受講することも可能です。（未経験者のみ）

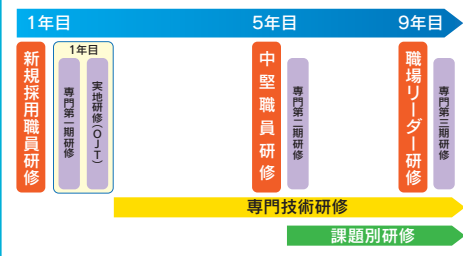


【障害者職業訓練職】

障害者職業訓練職は、障害者支援に係る専門研修のほか、訓練技能・技術に関する専門技術研修を受講します。

- 専門第一期研修（1年目）
- 専門第二期研修（5年目）
（職業リハビリテーション関係・職業能力開発関係）
- 専門第三期研修（9年目）
（職業リハビリテーション関係・職業能力開発関係）
- 専門技術研修（2年目～）

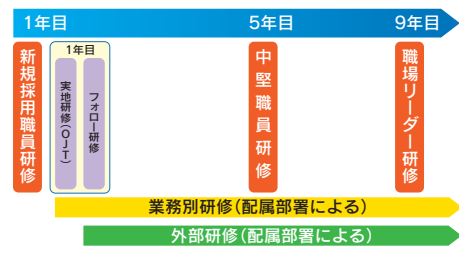
※要件を満たせば、受講機会は5年に1度



【事務職】

事務職は、全職種共通研修のほか、配属部署により、各担当業務に関する研修や外部の研修等を受講する場合があります。

- <共通> ○新規採用職員研修（1年目）
○中堅職員研修（概ね5年目程度）
○職場リーダー研修（概ね9年目程度）
○フォローアップ研修（1年目）
- <業務> ○業務別研修
（経理業務、納付金調査関係業務、求職者支援訓練業務）等
- <外部> ○政府関係法人会計事務職員研修（財務省主催）
○政府出資法人等内部監査業務講習会（会計検査院主催）等



※ 上記は本部において実施する研修で、平成28年度実績です。研修体系については今後変更することもあります。
※ 記載している「年数」は入構後年数になり、あくまで目安です。産休・育休等取得した場合は翌年度以降の受講となります。



Work-Life Balance

ワーク・ライフ・バランス



関東職業能力開発促進センター

田代 香

（職業能力開発職 平成12年採用）

理解と協力のある職場

現在小2の長男と3才の長女の子育てをしながら、機械系の職業訓練指導員として勤務しています。夫は出張が多いため、近くに住む義母にも子どもの送迎など協力してもらいながら両立をしています。定時終業では保育園と学童のお迎えに間に合わせるため、育児短時間勤務制度を利用して、30分早く終業しています。

訓練担当中に保育園から連絡が入り、子どもの急な発熱により帰宅せざるを得ない、といった事もあります。その場合には他の指導員に訓練を交代してもらっています。当初はとても気が引けましたが、「急な発熱など今の時期だけなのだから、気にせず子どもの面倒をみてあげて。」と先輩指導員から声を掛けていただき、気持ちの切り換えができました。少ない負担

で交代して貰うために、訓練内容を課題作成にして担当をお願いするなど工夫しています。いつ課題作成になっても良いような訓練進行を心がける、余分に課題を準備しておく、普段から授業の進行状況を同僚の指導員へ伝えておく、などの工夫をしています。

子育て中のドタバタした様子や子どもの楽しいエピソードなどを周囲の方々に話す事で、そんな時期もあったと共感してもらったり、笑い飛ばしてもらったり励ましていただいています。子育てをしていて、人は人、様々な立場と実感します。転勤を伴う職場だからこそ磨かれ、様々な立場を理解して下さる温かい方々が多いのだと思います。皆さんと一緒に当機構で働きませんか？



本部経理部会計課

吉松 鎮

（事務職 平成25年採用）

育児休業を通して得た経験

私は昨年9月23日に男の子を授かりました。生後1カ月から2カ月までの1カ月間、私は当機構の制度の一つである育児休業を取得しました。

理由は、産まれて間もない期間が「成長著しい期間」と呼ばれるのは如何ほどなのかと思ったことによりです。息子が第一子であることもその一因となりました。

取得に至るまでは、限られた人員体制の中で1カ月にわたり席を空けることや男性が育児休業を取得すること自体に周囲の理解を得られるか不安でしたが、上司や同僚に相談させていただく中で不安は解消され、ご理解と協力をいただきました。取得中に主にしたことはおむつ替えや入浴させることでしたが、「子どもが目覚める・泣く→授乳→寝かしつける→子ども

が目覚める・泣く」というおよそ3時間おきのサイクルに間近で触れたことを通して、思いどおりにならないことや妻の心身の負担を感じられたことが何より印象に残りました。

今後は子どもが成長するにつれて現実的な問題が数多く待ち受けていると思いますが、育児休業で得た経験はこれらの問題に関する家族の主張や思いにに対し、より近くに歩み寄れるきっかけになるだろうと思っています。

当機構は普段から職員一人ひとりに対して早めの帰宅や休暇を取得しやすくなるような取組もあって、仕事と家庭との両立には特に懐が深いのだと思います。そういった働きやすさがあるこの職場で皆さんと一緒に働くことを楽しみにしています。

仕事と家庭生活の主な両立支援制度

出産する場合

産前産後休暇

産前7週間、産後8週間（※労働基準法では、産前休業を6週間、産後休業を8週間と定めている。）

小学校就学前の子どもを養育する場合

育児短時間勤務

勤務時間を1日4時間（週20時間）、又は1日5時間（週25時間）に短縮

小学校就学前の子どもを看護する場合

子の看護休暇

年5日まで（対象となる子が2人以上の場合は年10日）

小学校就学前の子どもを養育、又は父母などを介護する場合

早出遅出勤務

始業・終業時刻を変更して勤務

配偶者、父母、子、配偶者の父母などを介護する場合

介護休業

対象家族1人につき通算して365日を限度

1歳未満の子どもを養育する場合

育児休業

子が1歳に達するまでの1年間を限度（特に必要と認められる場合は、1歳6カ月まで取得可能）

小学校就学前の子どもを養育する場合

育児部分休業

1日の勤務時間の一部（2時間以内）を勤務しないことが可能

3歳未満の子どもを養育する場合

時間外勤務（超過勤務）の免除

小学校就学前の子どもを養育、又は父母などを介護する場合

時間外勤務（超過勤務）の制限

時間外勤務（超過勤務）は月24時間・年150時間以内に制限

配偶者、父母、子、配偶者の父母などを介護する場合

介護休暇

年5日まで（対象となる子が2人以上の場合は年10日）

応募方法

求めている人材

- 機構の基本的理念に共感される方
- 高齢者、障害者及び求職者に対する温かい心と現状を分析できる冷静な判断力を併せ持つ方
- 機構内はもちろんのこと、機構外の関係機関や企業とも連携できる協調性を持った方
- 困難に対しても掛けず解決の道を探る粘り強さを持つ方

採用窓口

総務部人事課人事第二係、第五係

TEL：043-213-6098（障害者職業カウンセラー職、事務職及び併願者）

043-213-6129（職業能力開発職）

〒261-8558 千葉県千葉市美浜区若葉 3-1-2

URL：<http://www.jeed.or.jp/jeed/recruit/index.html>

E-MAIL：saiyou@jeed.or.jp

応募方法等

■応募書類

応募書類は、履歴書・自己紹介書・受験票（当機構指定様式をホームページからダウンロードしてご利用ください。）のほか、成績証明書、卒業（見込）証明書等となります。詳細については、当機構ホームページをご確認ください。

※応募書類は返却いたしませんので予めご了承ください。また、提出していただいた個人情報、当機構の採用活動及び採用後の雇用管理情報以外の目的に使用することはありません。

応募書類が整いましたら採用窓口へご提出ください。なお、封筒に「応募書類在中」と朱書きしてください。

職員採用説明会

採用説明会への参加をご希望される方は、就職情報サイト（マイナビ、リクナビ、キャリアス就活のいずれか）から事前に予約してください。既卒の方で就職情報サイトで登録することができない場合は総務部人事課 E-MAIL：saiyou@jeed.or.jp までお名前、希望会場及び希望日時（千葉会場・東京会場・大阪会場のみ）を記載してお問い合わせください。

※説明会に出席せずにご応募いただいても差し支えありません。

採用スケジュール



※採用スケジュールの詳細は、こちらをご覧ください。
（<http://www.jeed.or.jp/jeed/recruit/index.html>）

採用Q & A

応募に向けて

**Q 採用説明会はいつ開催されますか？
予約は必要ですか？**

A 採用説明会については3月1日以降に順次開催します。詳細は当機構ホームページ又は就職情報サイト（リクナビ、マイナビ、キャリアス就活）にてご案内します。参加をご希望される方は、上記就職情報サイトから事前に予約をしてください。既卒の方で就職情報サイトに登録することができない場合は、総務部人事課までお問い合わせください（E-MAIL：saiyou@jeed.or.jp）。※採用説明会に出席せずにご応募いただいても差し支えありません。

Q インターンシップは受け入れていますか？

A 職業能力開発職（職業訓練指導員）についてはインターンシップを受け入れておりますので、在籍している大学等を通じて全国の職業能力開発施設に直接お問い合わせください。

Q 応募する前に職場見学はできますか？

A 職業能力開発職（職業訓練指導員）及び事務職へのご応募を検討される方は、全国の職業能力開発施設（職業能力開発促進センター、職業能力開発大学校及び職業能力開発短期大学校）において見学が可能です。障害者職業カウンセラー職へのご応募を検討される方は、全国の職業リハビリテーション施設（地域障害者職業センター及び広域障害者職業センター）をご確認いただき、各施設へ直接お申し込みください（<http://www.jeed.or.jp/location/index.html>）。

Q 複数の職種の併願は可能ですか？

A 障害者職業カウンセラー職と事務職の組み合わせの場合のみ併願可能です（以下「併願」）。応募書類は併願者用をご使用ください。なお、応募要件は事務職の要件となり、試験は障害者職業カウンセラー職の内容で実施します。詳しくは募集要項をご覧ください。

採用試験について

Q 試験はどのような内容ですか？

A 基礎能力試験及び面接試験を行います。また、障害者職業カウンセラー職、事務職及び併願に応募された方については、小論文試験を行います。基礎能力試験は、能力検査と性格検査で構成されており、マークシート方式となっています。なお、試験内容の詳細は公表していませんが、四年制大学卒業程度の学力を有することを想定したものとっております。その他、障害者職業カウンセラー職、職業能力開発職及び併願に応募された方については専門試験を行います。詳しくは募集要項をご覧ください。

Q 専門的な知識は、どの程度必要ですか？

A 障害者職業カウンセラー職、職業能力開発職及び併願に応募された方に対し専門試験を行います。応募する際に複数の専門分野から一つを選択いただきますが、いずれの分野も基礎的な内容を問うものが主となっていますので、奮ってご応募ください。なお、原則として専門分野は応募後に変更することはできませんのでご注意ください。詳しくは募集要項をご覧ください。

Q 個別面接の日時を希望する日時に指定することはできますか？

A 原則として、当機構が指定する日時に受験していただきます。

Q 障害を持っている場合、受験の際に何か配慮は得られますか？

A 障害の状況に応じて、必要な配慮を検討いたしますので、受験時の具体的な配慮については、総務部人事課まで直接ご相談ください。
TEL：043-213-6098 E-MAIL：saiyou@jeed.or.jp

待遇等について

Q 給与と手当はどのようになっていますか？

A 当機構は独立行政法人であり、その業務は公務の一翼を担っています。法人の性質を踏まえ、給与と諸手当（扶養手当、通勤手当、住居手当等）については、国家公務員に概ね準拠した内容となっています。詳しくは募集要項をご覧ください。

Q 転勤はどのようになっていますか？

A 当機構は全国各地に拠点があるため、これらの拠点間での転勤があります。なお、勤務地や人事異動の範囲を限定した採用は行っておりませんが、在勤中は年に一回、人事異動希望をお聞きする機会があります。

Q 採用後の配属先はどのようになりますか？

A 障害者職業カウンセラー職は地域障害者職業センター、職業能力開発職はポリテクセンターまたはポリテクカレッジ、事務職は本部を含む全施設（地域障害者職業センターを除く）に配属される予定です。

Q 職員宿舎はありますか？

A 職員宿舎はありますが、数に限りがあるため、必ずしも入居できるとは限りません。なお、職員宿舎以外の住居をご自身で賃借する場合は、当機構の規程に基づき住居手当（上限27,000円）が支給されます。